

(一言メッセージ) 2019.2.11 現在

※柴山文科大臣の「教育勅語」発言の撤回と辞任を求める宗教者共同声明に寄せて

・中嶋哲演 (真言宗御室派 明通寺住職)

天皇のため、お国のために命まで捧げようとの精神を鼓舞した教育勅語は、沖縄・広島・長崎大空襲の破局にまで大人も子どもも追い込んだのでした。その背後に、欧米に追いつき追い越せの近代日本150年の歩み、とりわけ植民地支配と侵略戦争によって、国内外に過酷な犠牲者たちを多数生み出したことを忘れてはならないでしょう。

・石川浩徳 (立正平和の会副理事長)

柴山昌彦文科大臣の体質は安倍晋三首相の体質でもある。軍国主義復活につながりかねない発言と言わざるを得ない。

・岸田正博 (真言宗僧侶)

「教育勅語」の一部でも生きかえさせることは、これからの「いのち」を奪い去ることです。

・無着成恭 (曹洞宗 福泉寺東堂)

日本の初等教育の内容が国家主義であって、宇宙の真理に叛いている内容が多いと思います。日本の初等教育を担う教員養成の教育内容が問題なのでしょう。

・奥田靖二 (浅川金刀比羅神社宮司)

子どもたちを将来戦場に送ることにも通じる、このような発言は許せません！

・謝花悦子 (一般財団法人わびあいの里理事長)

73年前の戦争は日本が始めた。その戦場を沖縄に用意した。周囲22キロしかない伊江島に飛行場を造り、陣地を造り、兵隊を500～600名も動員した戦争によって、木1本、家一軒残さず、総全滅になった島、死体は足の踏み場もない戦場とされた島に、戦後73年を迎えた日本の国は後片付けもしない、反省もしない、責任も取らないうちに次の永久の軍備の工事を伊江島・辺野古・高江でやっております。柴山文科大臣の教育勅語の発言の撤回と辞任を望みます。許すわけにいきません。

・斎藤 昭俊 (真言宗寶蓮寺住職)

主権在民に全く反するものを、今更持ち出すとは論外であり、この勅語が戦争につながるものであることは明らかである。絶対に認められない。

・以下、賛同人の方からのメッセージです。

「こういう発言がまかり通る世の中になるのは嫌なので賛同します。」(女性)

「柴山文科大臣には歴史を学んで欲しい。大臣たる資格はありません。」(東京都在住の女性)

「撤回を求める。全議員に意向を確認すべき。」(埼玉県在住の男性)